

皮膚科のトリビア

233

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会から

令和5年6月18日

IRUDってなんだ

IRUDとは、Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(未診断疾患イニシアチブ)の略で、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が主導し、日常の臨床現場で診断をつけるのがむずかしい患者を対象に網羅的遺伝子解析を行い、その結果を症状と照らし合わせることで、希少疾患や新規の疾患について診断を行うことを目的とするプロジェクト研究のこと。「コンサルシート」をダウンロードし記入して、各地域のIRUD拠点病院の診断委員会事務局に送付、IRUD拠点病院内に設置された診断委員会で受診の可否を決定し、受診可の場合、IRUD拠点病院の専門外来へ紹介する仕組み。2015年からこれまでの取り組みによって25の新しい疾患が世界で初めて発見された。

一言コメント

「知らなかった。IRUDのホームページ(<https://plaza.umin.ac.jp/irud/>)があるので参考にしたい。」

●第907回日本皮膚科学会東京地方会から

令和5年7月8日

エムボックスの典型例

30歳代、同性愛者(men who have sex with men: MSM)の男性。発熱とともに中心臍窩を伴う

膿疱と膿性の小水疱が全身に生じた。肛囲を中心に小潰瘍も散在。PCRでエムボックスウイルスを検出し、グレード IIのエムボックスと診断。早期病変と思われる丘疹からの皮膚生検では、表皮内に浮腫があるものの、ウイルス性の巨細胞はなし。現在国内で問題となっている流行型のエムボックスはヒトからヒトへの感染がメインで、患者は20~40歳代のMSMの男性にほぼ限られている。臨床的には紅斑、丘疹、小水疱、膿疱、痂皮、潰瘍が混在するのが特徴で、全身症状としては発熱、頭痛、倦怠感、リンパ節腫大がみられる。41%がヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus: HIV)感染者で、29%にHIV以外の性感染症を伴っている。肛囲や性器に皮膚症状を伴う例が73%で、エムボックスを疑ったら必ず診察すること。

一言コメント

「典型例をしっかりと目に焼き付けた。最近エムボックスウイルスの変異株が出現したと聞いた。これは死亡率が比較的高く、家族や家庭内での密接な接触など、性行為以外の経路でも感染するという点で流行型とも異なるという。COVID-19のように変異を繰り返すと、軽症例が出現するかもしれないので、注意が必要である。」

●第907回日本皮膚科学会東京地方会から

令和5年7月8日

pseudolymphomatous folliculitis

70歳代男性、頭皮に拇指頭大のわずかに隆起す

る、ほぼ正常な色調の局面が生じた。自覚症状はないが、毛包の開大が目立ち、局面内の毛髪は脱落している。病理組織学的には真皮内に炎症細胞が稠密に浸潤し、毛包の過形成があるのが特徴。顔面に好発する単発の局面で、鱗屑や角化を伴わない、表面平滑なドーム状、あるいは扁平に隆起する淡い紅色結節であることが多い。pseudolymphomaの一亜型と考えられる。生検を契機に自然消褪する例がある。

一言コメント

「pseudolymphomaないし良性のリンパ球腫と診断して終わりそうだが、毛包の過形成を伴っているところが、亜型とされる理由とのこと。」

●第47回日本小児皮膚科学会から

令和5年7月15日

母乳中の飽和脂肪酸がアトピー性皮膚炎のリスクになる

母乳栄養がアトピー性皮膚炎の発症リスクであることが、出生コホート調査によって明らかになった。母乳中にある免疫調整物質の解析から、飽和脂肪酸の関与が示唆された。乳児期に与えられた飽和脂肪酸が児の正常な腸内細菌叢形成を妨げ、腸内で自然リンパ球のILC3を誘導することがアトピー性皮膚炎の発症に関わっている可能性がある。生後1カ月以内の腸や皮膚でのディスバイオシス(バランスの乱れ)を克服することが重要である。

一言コメント

「腸内善玉ビフィズス菌を増やすために、HMO(ヒトミルクオリゴ糖)を含む粉ミルクが開発されているらしい。細菌ゲノム解析が進んでいて、常在菌の役割がさまざまな臓器でわかってきているようだ。注目しておこう。」

●不眠症診療Webセミナーから

令和5年9月12日

認知症基本法

認知症基本法が2023年6月14日に成立、2024年1月1日に施行された。この法律の目的は、認知症の

人が尊厳を保ち、希望をもって暮らすことができるよう、認知症に関する基本理念を作成し、国、都道府県、市町村の責任を明らかにすること。認知症の人がほかの人々と互いに力を合わせ支え合いながら、安心して活力に満ちた共生社会を実現すること。基本的な理念は、すべての認知症の人が基本的人権を有する個人として、その人自身の意志によって生活できること、誰もが共生社会実現のために必要な認知症の正しい理解と、認知症の人に対する正しい理解を深めること、認知症の人の暮らしの環境を整備し、自分の住む町で安心した暮らしができるだけでなく、積極的に社会参加し活躍できること、認知症の人の考えを尊重しながら適切な保険医療、福祉、サービスがいつでも提供できること、などがうたわれている。

一言コメント

「内閣には内閣総理大臣を本部長とする認知症施策推進本部が設置される。国としての取り組みが実現することは認識しておこう。」

●Expert Webinar on Dermatologyから

令和5年10月6日

アトピー性皮膚炎の痒みフェノタイプと皮疹重症度の関係

成人アトピー性皮膚炎患者の痒み(I)の程度(重症:S, 軽~中等症:M), 皮膚病変(L)の重症度(重症:S, 軽~中等症:M)を4つのサブセットに分けた。MI-MLが58.7%, MI-SLが8.5%, SI-MLが23.8%, SI-SLが9.0%だった。このうち、皮膚症状が強くないにもかかわらず痒みが強い患者群では、痒みのトリガーが多く、6カ月間に悪化した回数も少なくなく、その割に高度な治療を受けていない。痒みの客観的評価を診察のたびに行うことも必要である。

一言コメント

「SI-MLの群が意外に多いことを再認識した。この群に対しては抗IL-31製剤による治療の適応を考慮することになるのであろう。あるいは、今後SI-SLには抗IL-31と抗IL-4/13ないし抗IL-13製剤の併用が可能になるのかもしれない。」